

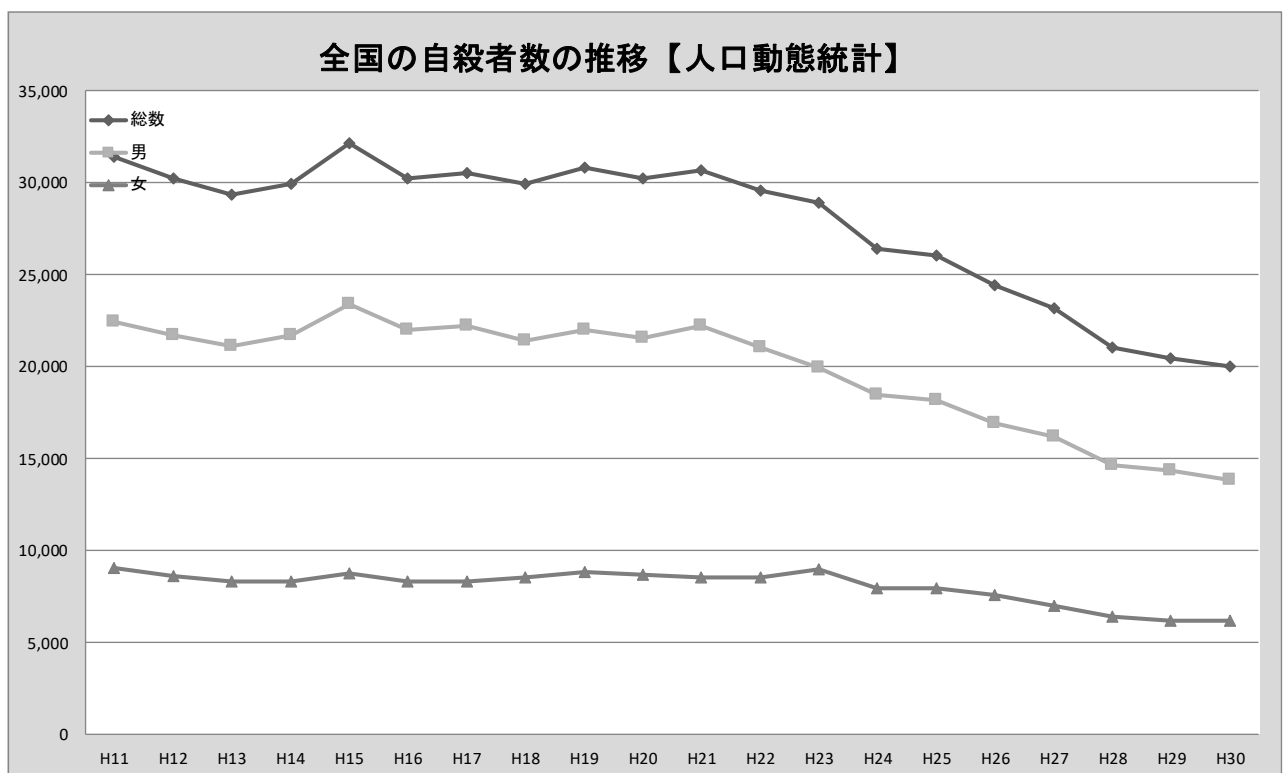
大阪市の自殺の状況：その推移と平成 30 年の現況

1. 全国の自殺者数の推移（人口動態統計：H11～H30）

男女総計：自殺死亡者数は、昭和 55 年（1980 年）以降概ね年間 2 万人から 2 万 5 千人の間で推移していたが、平成 10 年（1998 年）に急増し、戦後初めて 3 万人（31,755 人）を超えた。その後も増減しながら平成 21 年までは概ね年間 3 万人前後で推移し、平成 23 年以降は減少傾向を維持している。平成 27 年に急増前の平成 9 年を下回るまで減少し、その後も減少を続けている。

男性：平成 10 年以降では、男性の自殺死亡数は女性のほぼ 2～3 倍で推移しており、男女総計の自殺死亡の傾向は男性の傾向とほぼ同様となっている。

女性：平成 10 年に 9 千人台に増加したが、平成 12 年以降は 8 千人台で推移し、男性と同様に平成 23 年以降は一貫して減少傾向を維持しており、平成 27 年以降は急増前の平成 9 年の 7 千人台を下回る 6 千人台まで減少している。



全国の自殺者数の推移

年次別	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
総数	31,413	30,251	29,375	29,949	32,109	30,247	30,553	29,921	30,827	30,229	30,707	29,554	28,896	26,433	26,063	24,417	23,152	21,017	20,465	20,031
男	22,402	21,656	21,085	21,677	23,396	21,955	22,236	21,419	22,007	21,546	22,189	21,028	19,904	18,485	18,158	16,875	16,202	14,639	14,333	13,851
女	9,011	8,595	8,290	8,272	8,713	8,292	8,317	8,502	8,820	8,683	8,518	8,526	8,992	7,948	7,905	7,542	6,950	6,378	6,132	6,180

資料：「人口動態統計」より

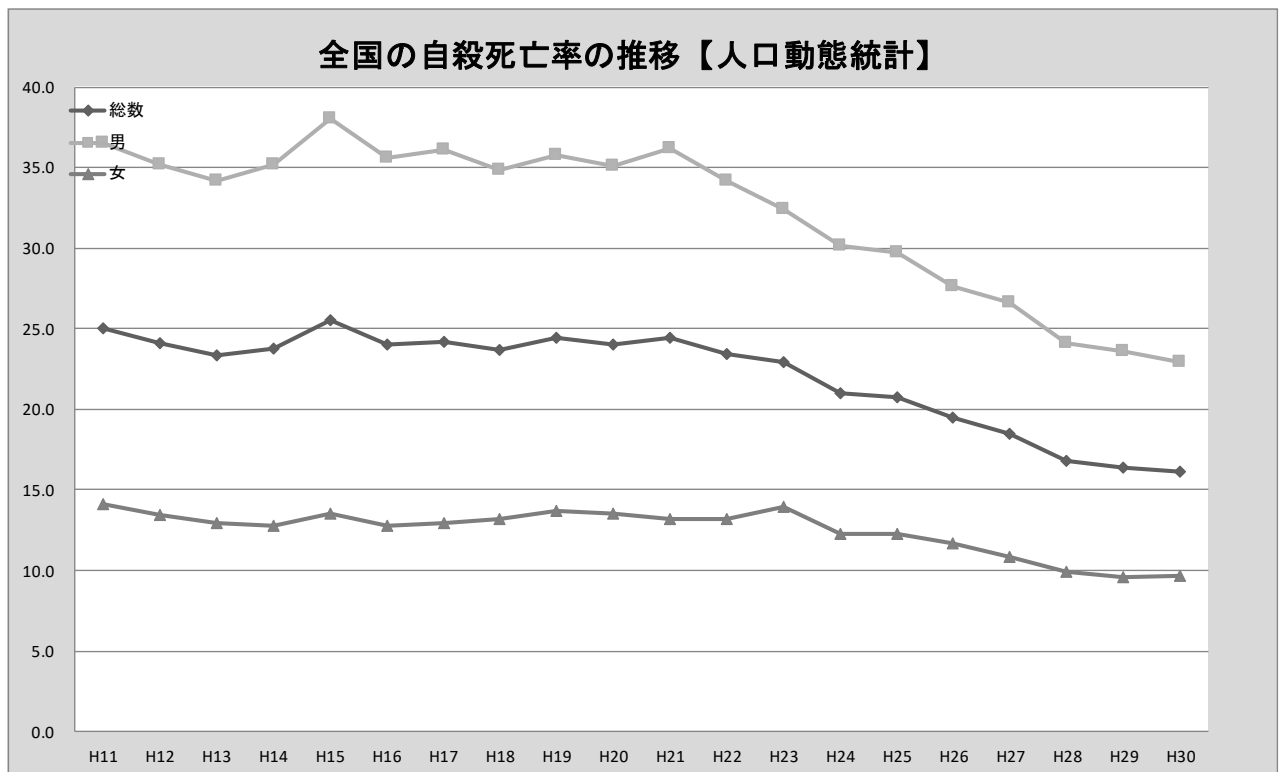
2. 全国の自殺死亡率の推移（人口動態統計：H11～H30）

男女総計：傾向は自殺死亡者数と同様であり、昭和 55 年（1980 年）以降は増加した年でも人口 10 万人当たり（以下単位同様）22 未満で推移していたが、平成 10 年（1998 年）に急増し（25.4）、その後増減しながら平成 22 年までは概ね 23～24 台で推移し、平成 23 年以降は減少傾向を維持している。平成 27 年に急増前の平成 9 年（18.8）を下回るまで減少しその後も減少が続いている。

平成 11 年から平成 30 年の減少率は 35.6%となっている。

男性：平成 10 年以降では、男性の自殺死亡率は女性のほぼ 2～3 倍で推移しており、男女総計の自殺死亡率の傾向は男性のそれとほぼ同様となっている。平成 10 年から平成 29 年の減少率は 35%となっている。

女性：平成 10 年に増加したものの、平成 12 年以降は 12～13 台で推移し、男性と同様に平成 23 年以降は減少傾向を維持しており、平成 26 年以降は急増前の平成 9 年（11.9）を下回り平成 28 年以降は一桁台を維持している。平成 11 年から平成 30 年の減少率は 31%となっている。



全国の自殺死亡率の推移

年次別	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
総数	25.0	24.1	23.3	23.8	25.5	24.0	24.2	23.7	24.4	24.0	24.4	23.4	22.9	21.0	20.7	19.5	18.5	16.8	16.4	16.1
男	36.5	35.2	34.2	35.2	38.0	35.6	36.1	34.8	35.8	35.1	36.2	34.2	32.4	30.1	29.7	27.6	26.6	24.1	23.6	22.9
女	14.1	13.4	12.9	12.8	13.5	12.8	12.9	13.2	13.7	13.5	13.2	13.2	13.9	12.3	12.3	11.7	10.8	9.9	9.6	9.7

資料：「人口動態統計」より

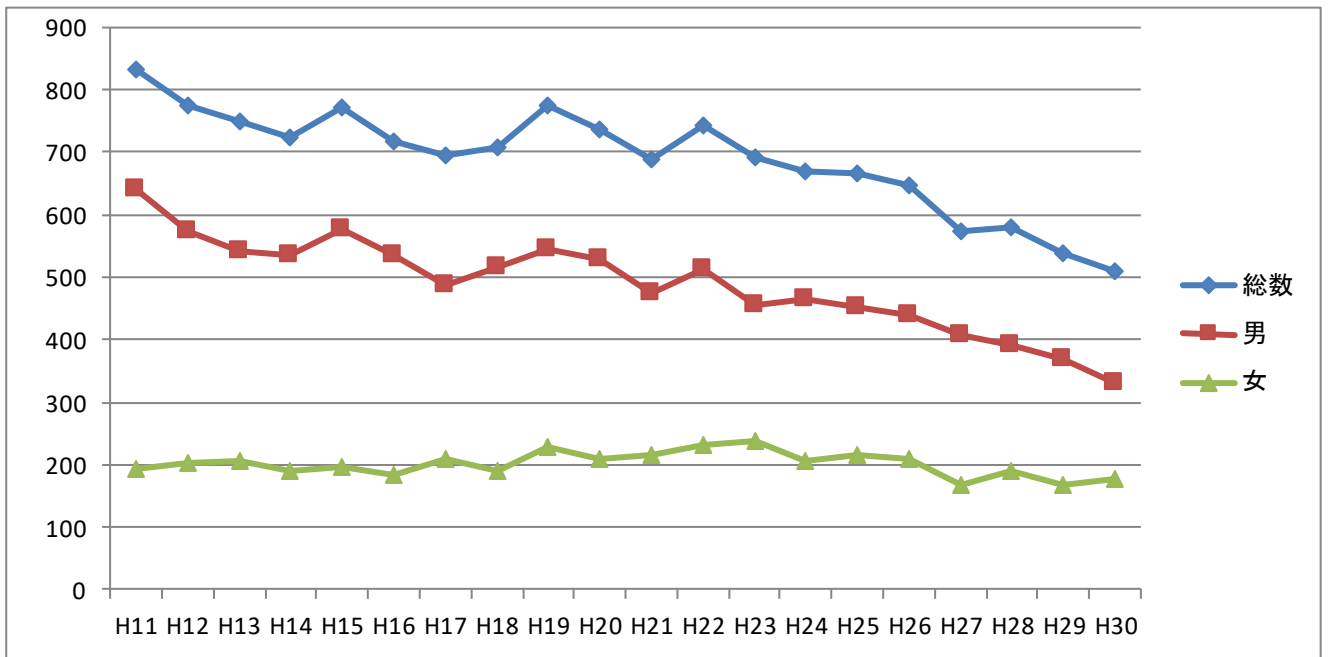
3. 大阪市の自殺者数の推移（人口動態統計：H11～H30）

男女総計：全国の傾向と同様に、平成9年の525人から平成10年に年間876人と急増したが、平成11年から全国に先駆けて減少し始めた。その後、全国の自殺死亡数は平成21年まではほぼ横ばいであったのに対して、大阪市の自殺死亡数は平成17年には、一旦年間700人を下回り、その後微増と微減を繰り返しながら、平成22年まではほぼ横ばいに経過した。平成23年以降は、全国値の傾向と同様に減少傾向を維持し700人未満となり、平成30年は急増する前の平成9年を下回った。

男性：男女総計とほぼ同様の傾向となっている。

女性：平成9年から平成10年に増加したものの、以降は200人前後の横ばいで推移していた。平成17年からは増加傾向に転じ、平成23年までは230人台となる年も続いた。平成27年以降は200人未満で増減している。

大阪市の自殺者数の推移（人口動態統計）



自殺者数の推移

年次別	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
総数	832	776	748	724	773	719	696	708	776	738	688	744	691	671	667	647	573	580	537	509
男	640	574	543	535	578	535	486	517	546	529	473	512	454	464	452	439	406	391	369	332
女	192	202	205	189	195	184	210	191	230	209	215	232	237	207	215	208	167	189	168	177

資料：「人口動態統計」より

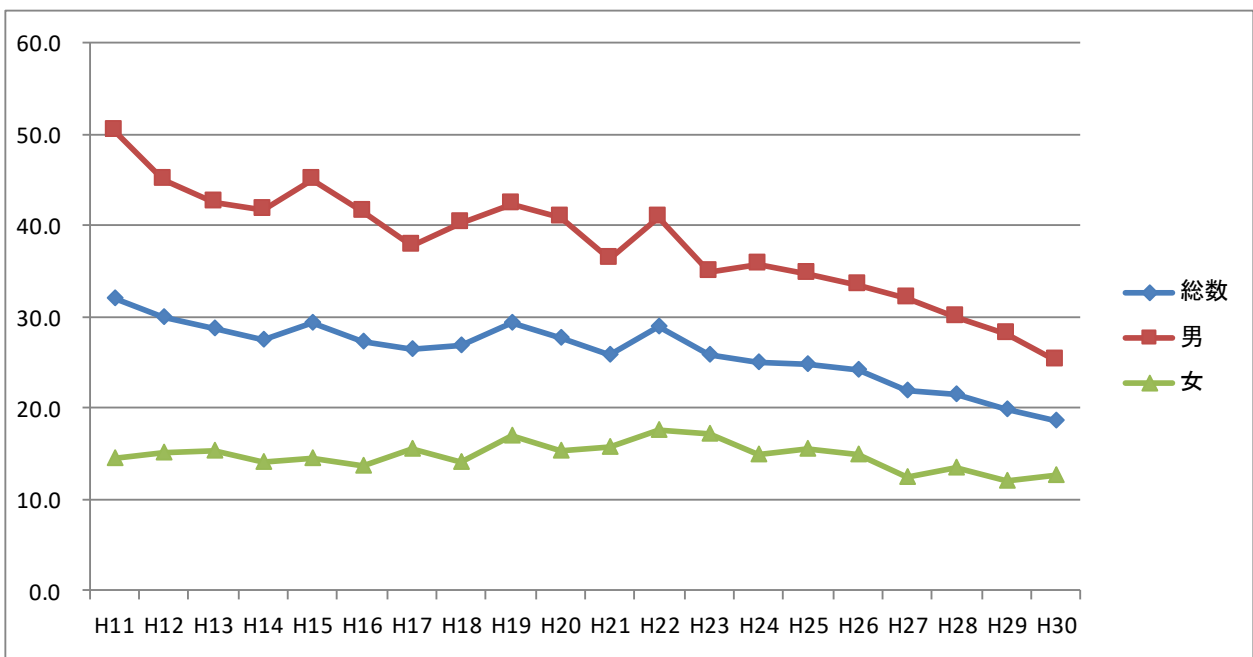
4. 大阪市の自殺死亡率の推移（人口動態統計：H11～H30）

男女総計：全国の傾向と同様に平成10年に急増したが、平成12年から全国に先駆けて減少し始めた。その後、全国の自殺死亡率は平成21年まで微減であったのに対して、大阪市の自殺死亡率は平成17年には、平成10年の値の20%減少となった。その後微増と微減を繰り返しながら、平成22年まではほぼ横ばいに経過したが、平成23年以降は、全国値の傾向と同様に減少傾向を維持し平成29年には、急増前の平成9年よりも低い19.8となっている。また、平成10年から平成30年の減少率は44.5%となっている。

男性：男女総計とほぼ同様の傾向となっている。

女性：自殺死亡数と同様である。

大阪市の自殺死亡率の推移(人口動態統計)



自覚死亡率の推移

年次別	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
総数	32.1	29.9	28.7	27.6	29.4	27.3	26.5	26.8	29.3	27.8	25.8	29.0	25.9	25.1	24.9	24.1	22.0	21.5	19.8	18.7
男	50.3	45.1	42.5	41.8	45.0	41.6	37.9	40.3	42.4	40.9	36.4	41.0	35.0	35.7	34.7	33.5	32.1	29.9	28.1	25.2
女	14.5	15.2	15.4	14.1	14.5	13.6	15.6	14.1	16.9	15.4	15.8	17.6	17.2	15.0	15.6	15.0	12.4	13.5	12.0	12.6

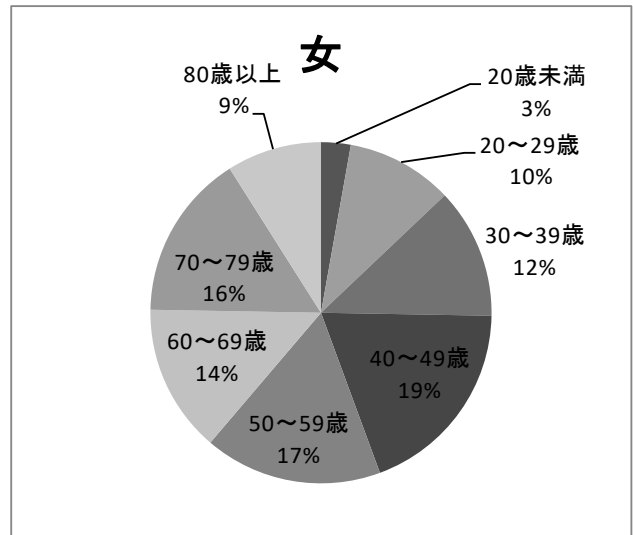
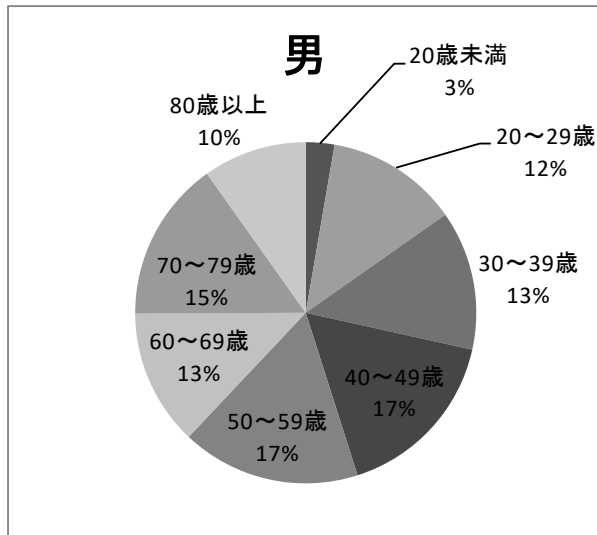
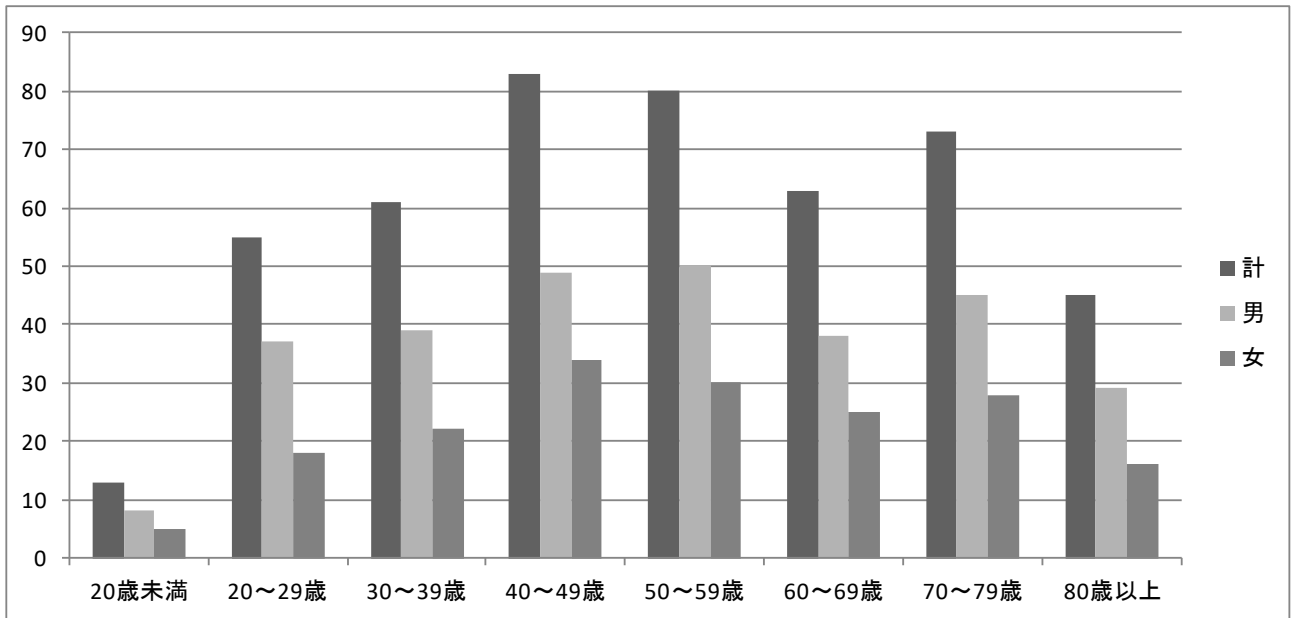
資料:「人口動態統計」より

5. 年齢別・男女別自殺者数（内閣府・警察庁統計）

平成30年の本市の自殺者数473人（男性295人（62%）、女性178人（38%））を年齢別にみると、40歳代が最も多く83人（17.5%）、ついで50歳代80人（16.9%）、70歳代73人（15.4%）となっている。

男女別でも、40歳代、50歳代、70歳代が多くなっている。

平成30年 年齢別・男女別の自殺者数（内閣府・警察庁統計）



年齢別男女別

年齢	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計
計	13	55	61	83	80	63	73	45	473
男	8	37	39	49	50	38	45	29	295
女	5	18	22	34	30	25	28	16	178

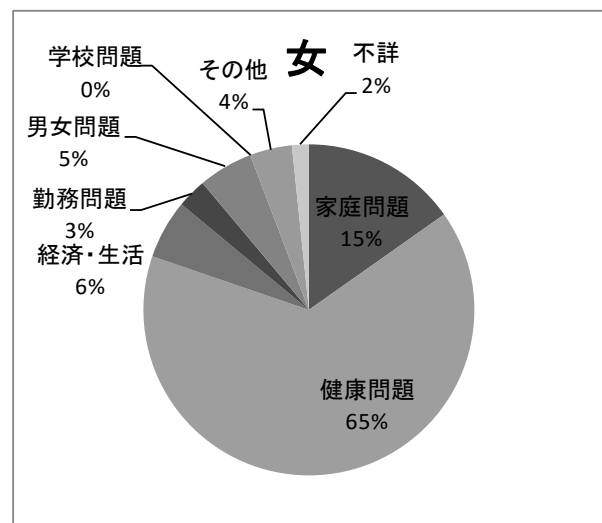
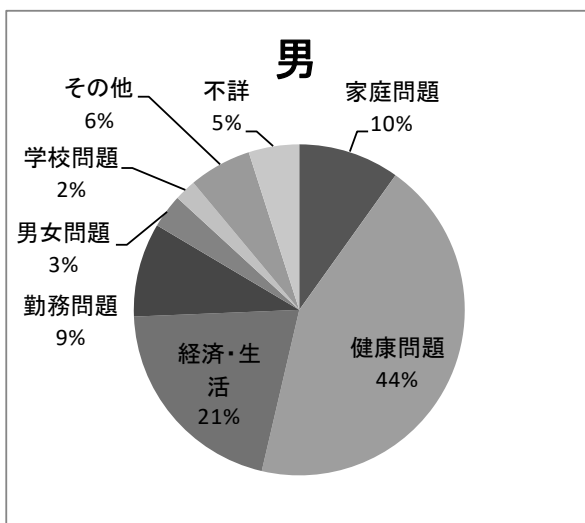
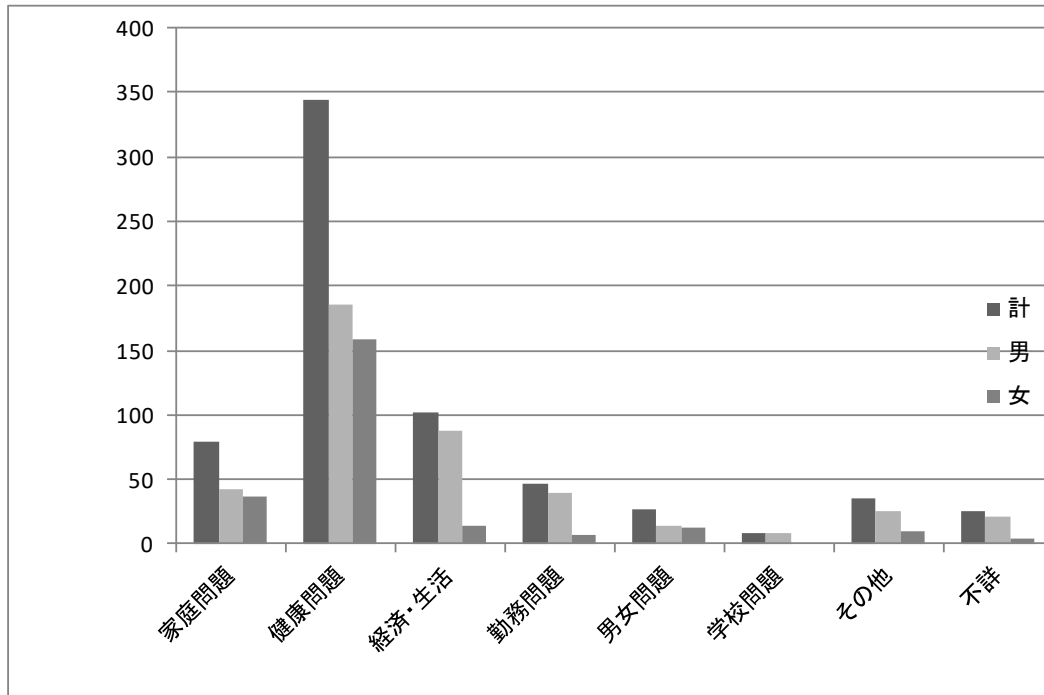
6. 原因別・男女別自殺者数（内閣府・警察庁統計）

（遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を、自殺者一人につき3つまで計上可能として警察庁が集計した結果）

自殺の原因・動機としては、「健康問題」が51%と最も多く、次いで「経済・生活問題」（15%）、「家庭問題」（12%）となっている。

男女別で見ると、男女とも「健康問題」が一番多かったが、女性はその割合が65%と男性の44%より大きくなっている。次に男性は「経済・生活問題」が多いのに対し、女性は「家庭問題」が多くなっている。

平成30年 原因別・男女別（内閣府・警察庁統計）



原因別・男女別

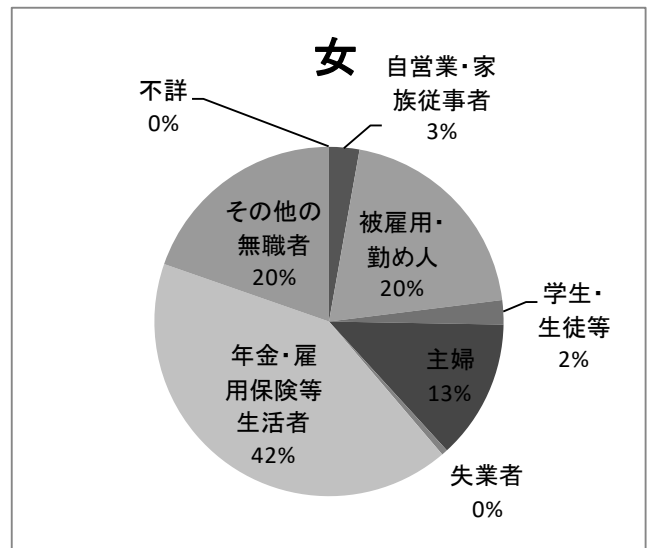
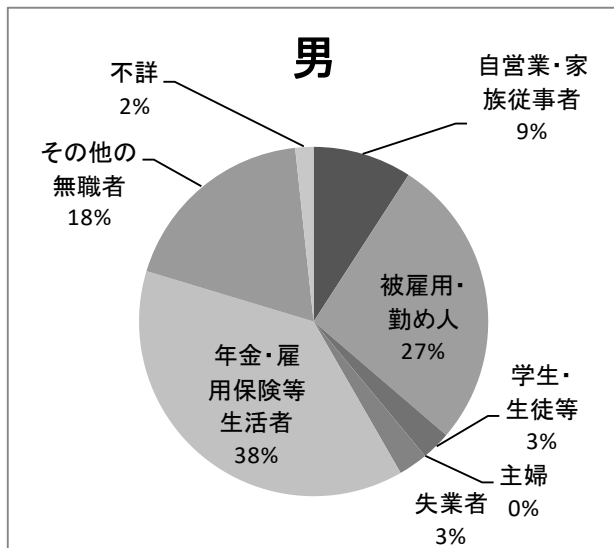
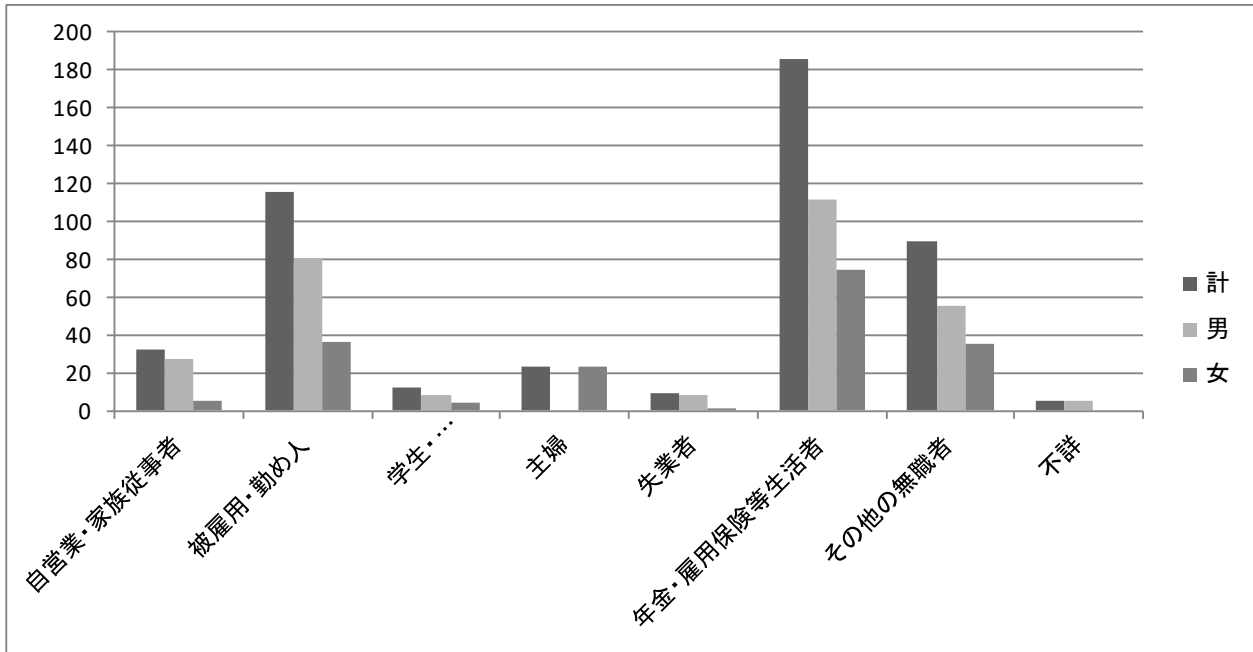
原因	家庭問題	健康問題	経済・生活	勤務問題	男女問題	学校問題	その他	不詳	計
計	79	344	102	46	27	9	36	25	668
男	42	186	88	39	14	9	26	21	425
女	37	158	14	7	13	0	10	4	243

7. 職業別・男女別自殺者数（内閣府・警察庁統計）

職業別でみると「年金・雇用保険等生活者」が186人（39%）と最も多く、次いで「被雇用者・勤め人」が116人（25%）、「その他の無職者」90人（19%）となっている。

男女別では、男女とも「年金・雇用保険等生活者」の割合が最も多く、男性は次いで「被雇用者・勤め人」、「その他の無職者」の順となっているが、女性は「被雇用者・勤め人」、「その他の無職者」がほぼ同数となっている。

平成30年 職業別・男女別（内閣府・警察庁統計）



職業別・男女別

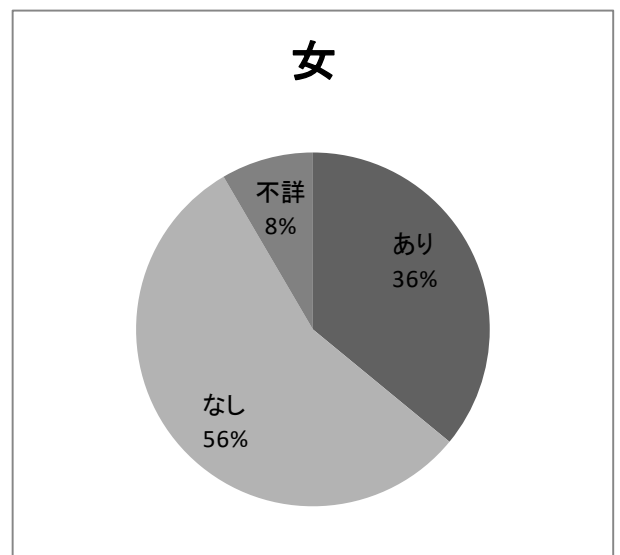
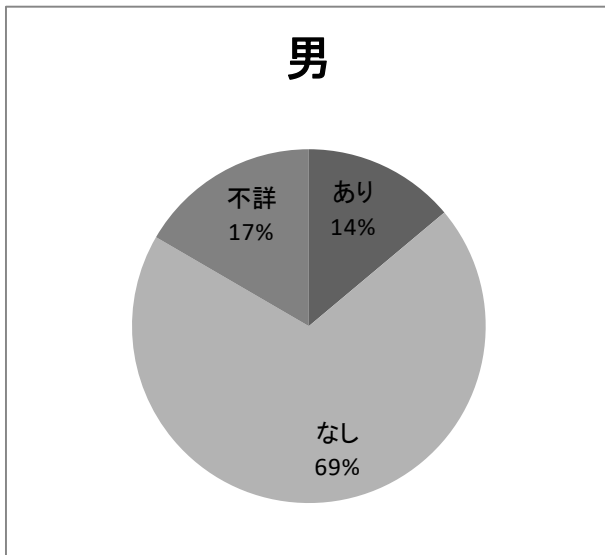
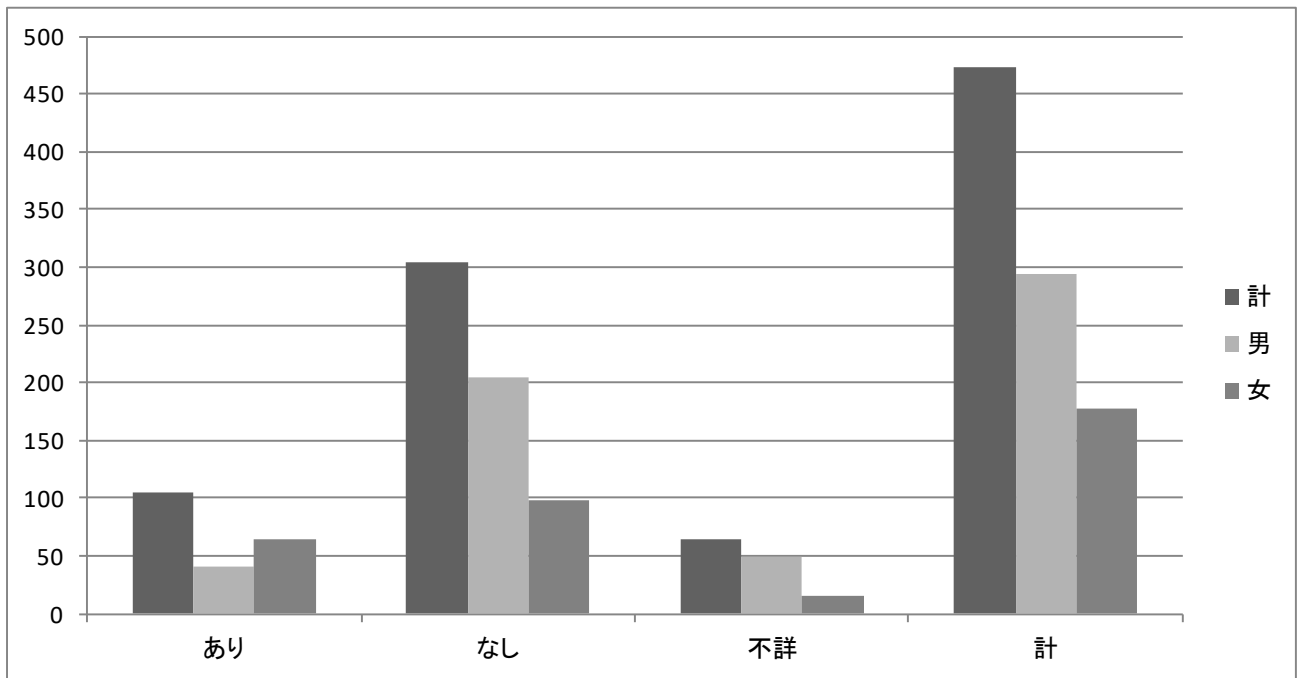
職業	自営業・家族従事者	被雇用・勤め人	学生・生徒等	主婦	失業者	年金・雇用保険等生活者	その他の無職者	不詳	計
計	32	116	12	23	9	186	90	5	473
男	27	80	8	0	8	112	55	5	295
女	5	36	4	23	1	74	35	0	178

8. 既遂者における自殺未遂の有無・男女別自殺者数（内閣府・警察庁統計）

既遂者における自殺未遂の有無別で見ると、「未遂なし」が304人(64.2%)、「未遂あり」105人(22.2%)となっている。

男女別で見ると男性では自殺未遂歴「なし」が69%（全国値66%）、「あり」が14%（全国値14%）、女性では自殺未遂歴「なし」が56%（全国値56%）、「あり」が36%（全国値30%）となっている。

平成30年 既遂者における自殺未遂の有無・男女別（内閣府・警察庁統計）



既遂者における自殺未遂の有無・男女別

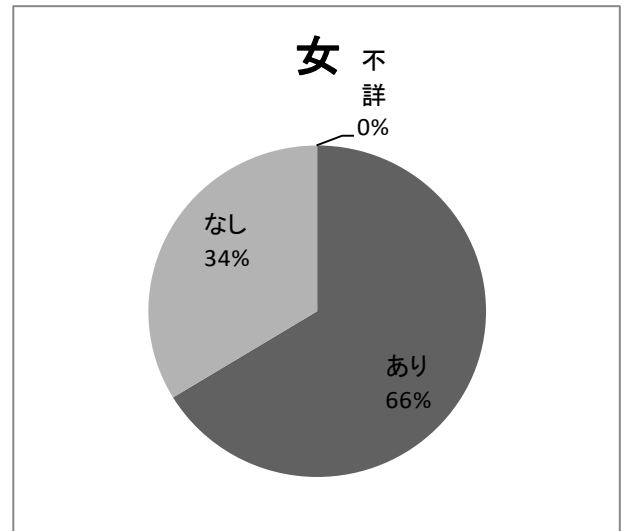
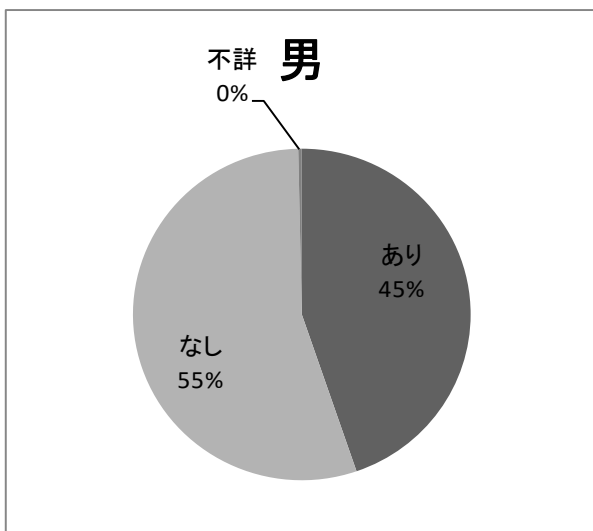
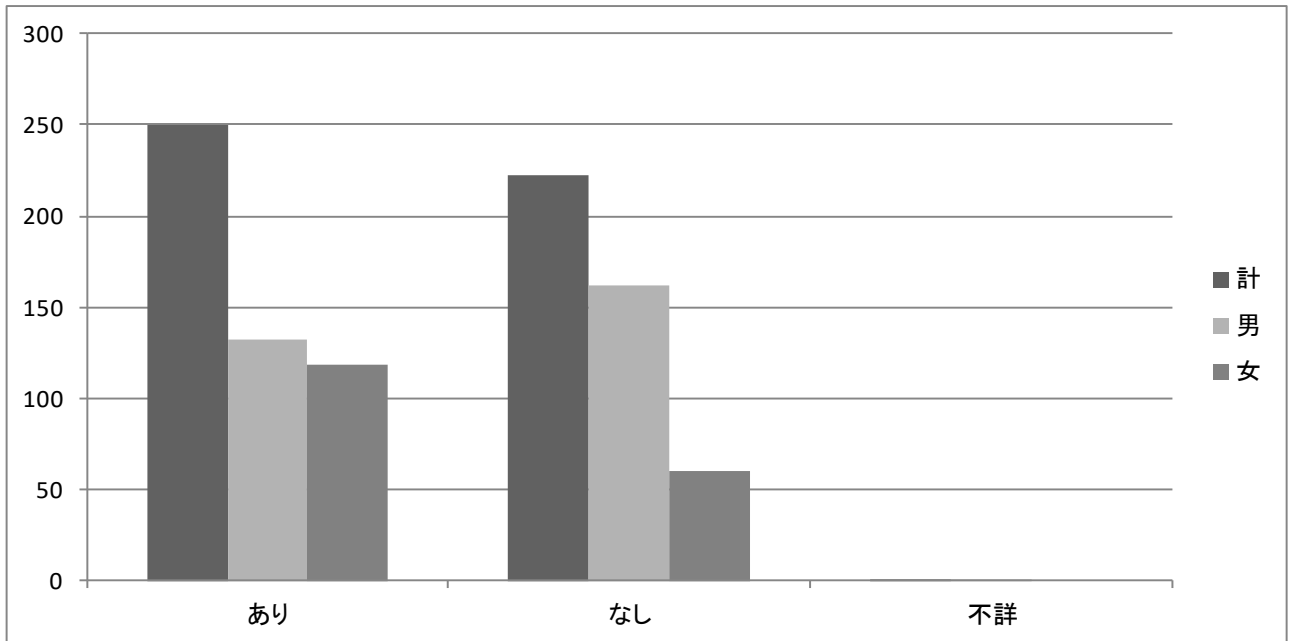
自殺未遂	あり	なし	不詳	計
計	105	304	64	473
男	41	205	49	295
女	64	99	15	178

9. 同居人の有無・男女別自殺者数（内閣府・警察庁統計）

同居人の有無別で見ると、「同居人あり」が250人（52.8%）、「同居人なし」が222人（46.9%）となっている。

男女別で見ると、全国では男女とも「同居人あり」が「同居人なし」より約2倍多くなっているが、本市においては男性において「同居人なし」の方が多くなっている。

平成30年 同居人の有無・男女別（内閣府・警察庁統計）



同居人の有無・男女別

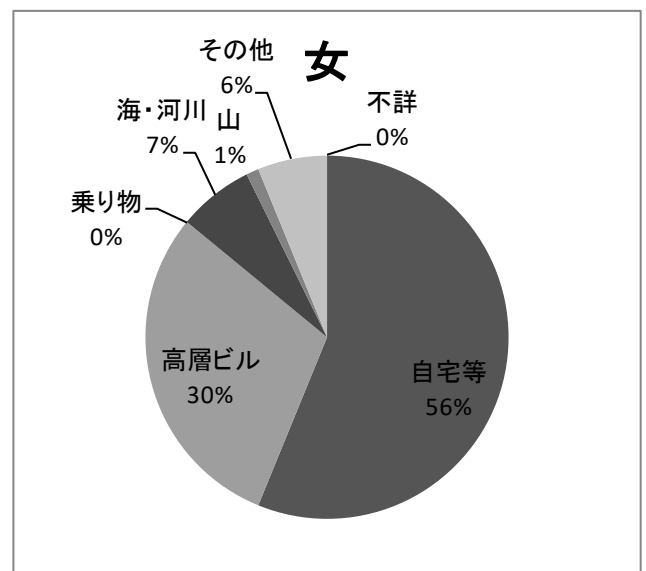
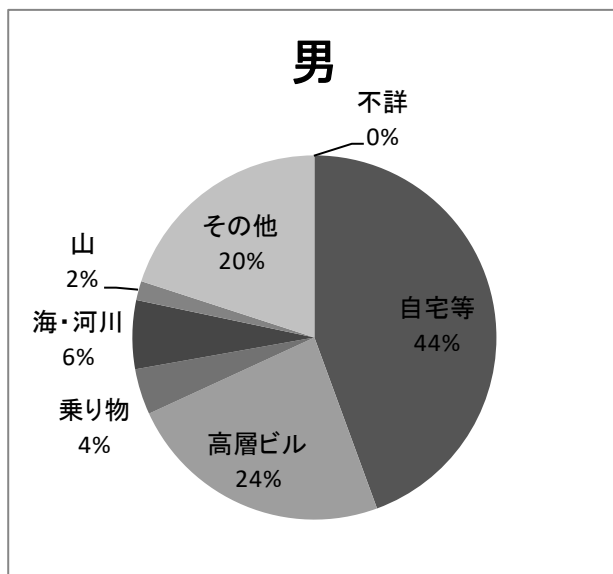
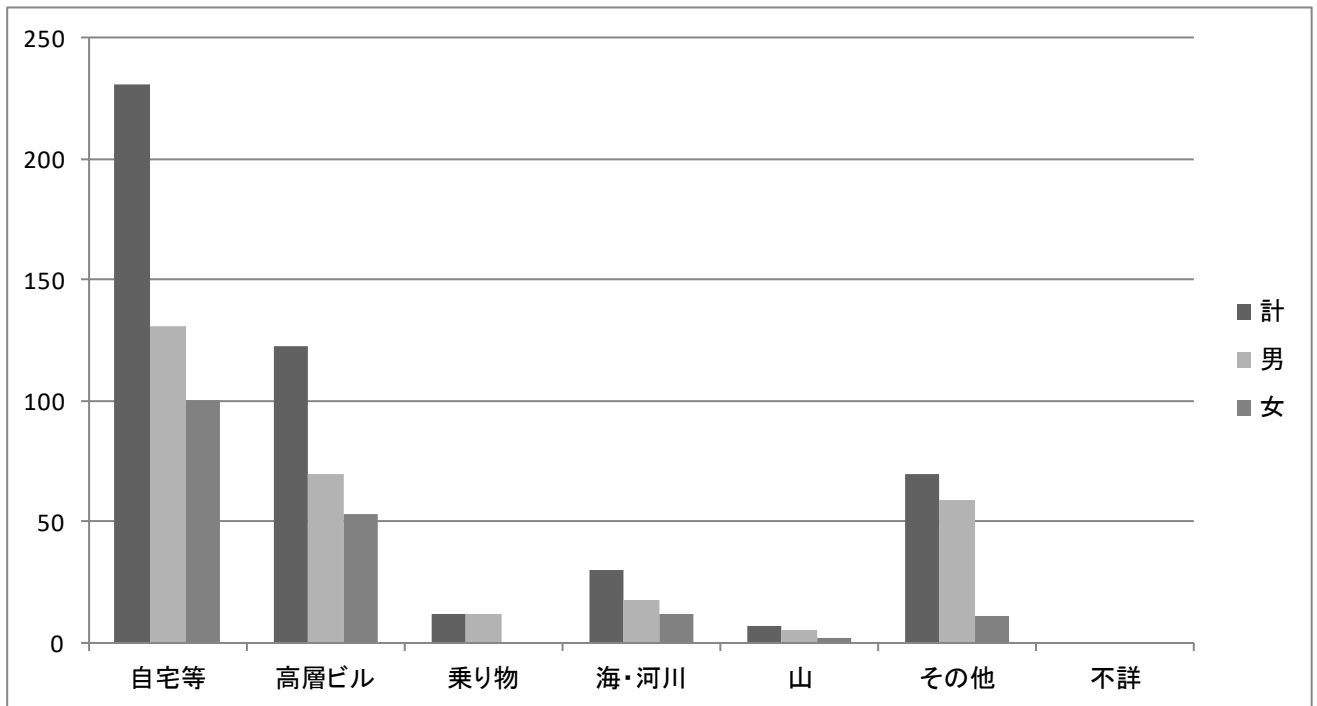
同居人	あり	なし	不詳	計
計	250	222	1	473
男	132	162	1	295
女	118	60	0	178

10. 場所別・男女別自殺者数（内閣府・警察庁統計）

場所別で見ると、男女ともに「自宅等」が最も多く、次いで「高層ビル」、「海（湖）・河川」となっている。

同様の順であるが、男性では次いで「乗り物」、「山」での発生がみられる。

平成30年 場所別・男女別自殺者数（内閣府・警察庁統計）



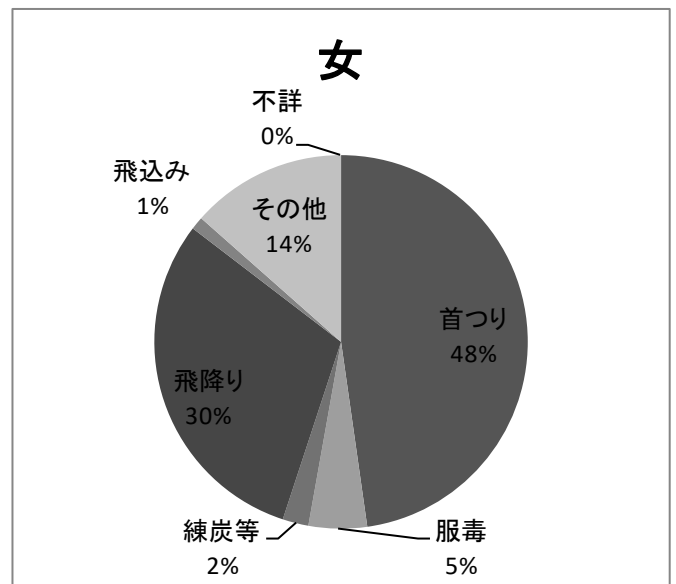
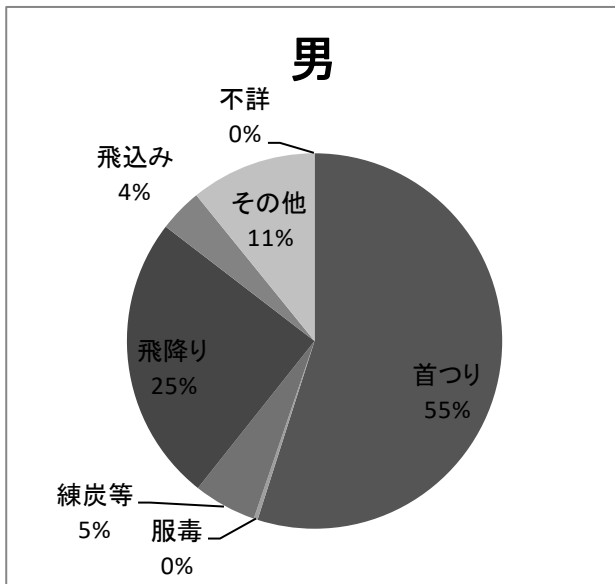
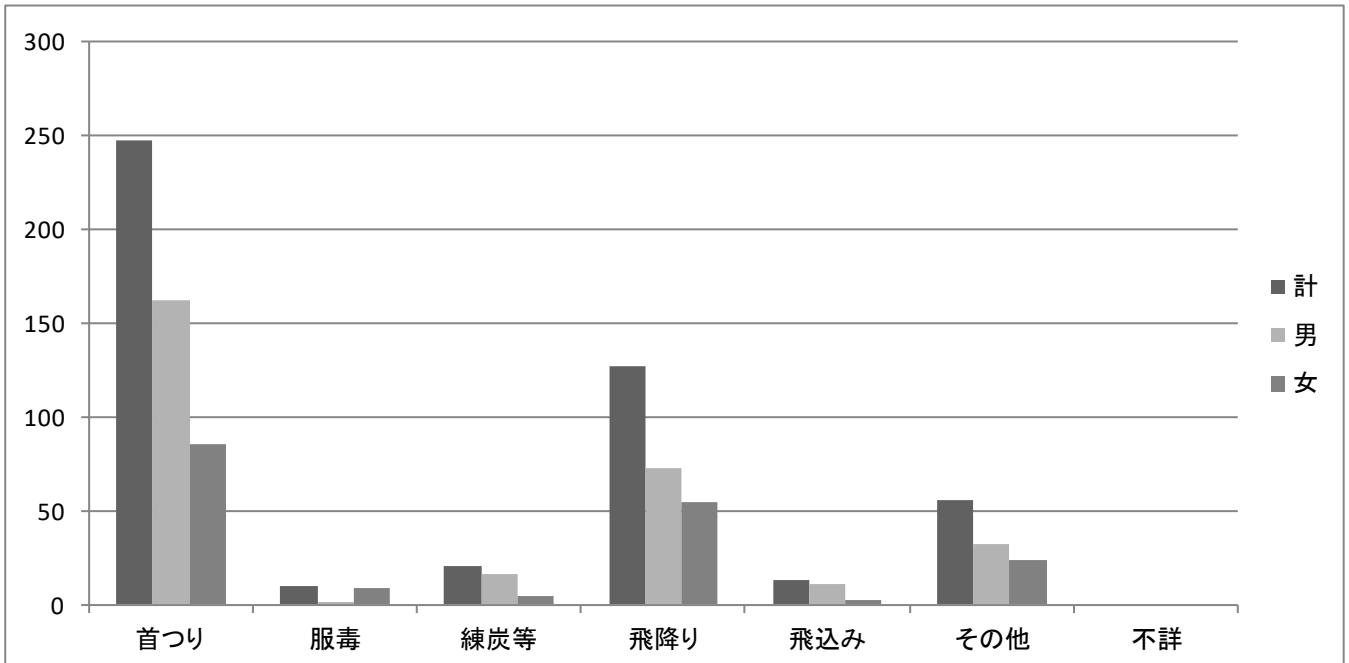
場所別・男女別自殺者数

場所	自宅等	高層ビル	乗り物	海・河川	山	その他	不詳	計
計	231	123	12	30	7	70	0	473
男	131	70	12	18	5	59	0	295
女	100	53	0	12	2	11	0	178

1 1. 手段別・男女別自殺者数（内閣府・警察庁統計）

手段別で見ると、「首つり」が最も多く、次いで「飛降り」となっている。
男女別でも同様となっている。

平成30年 手段別・男女別自殺者数（内閣府・警察庁統計）



手段別・男女別自殺者数

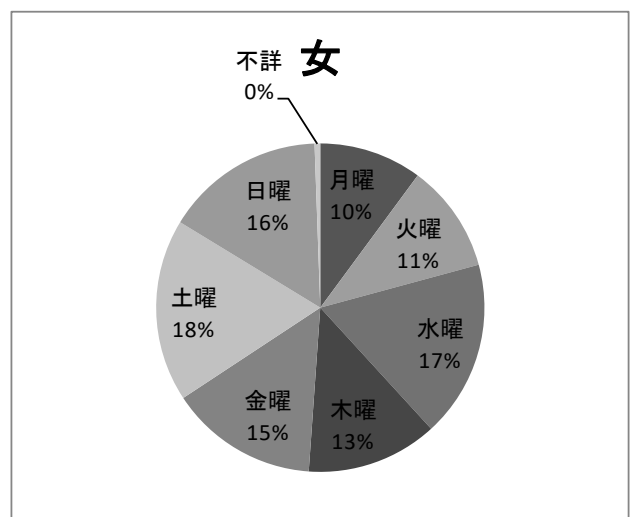
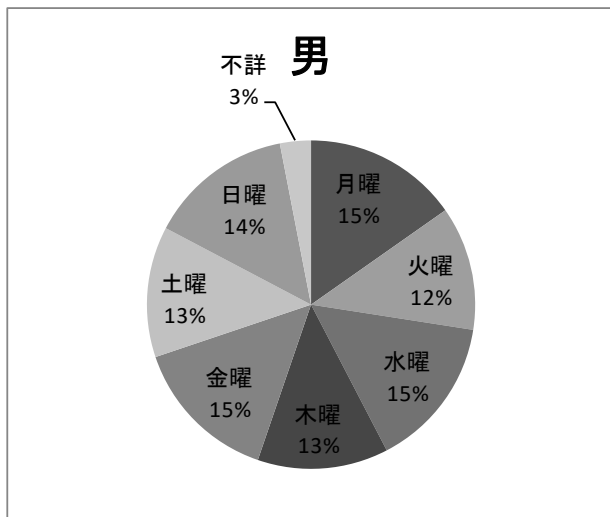
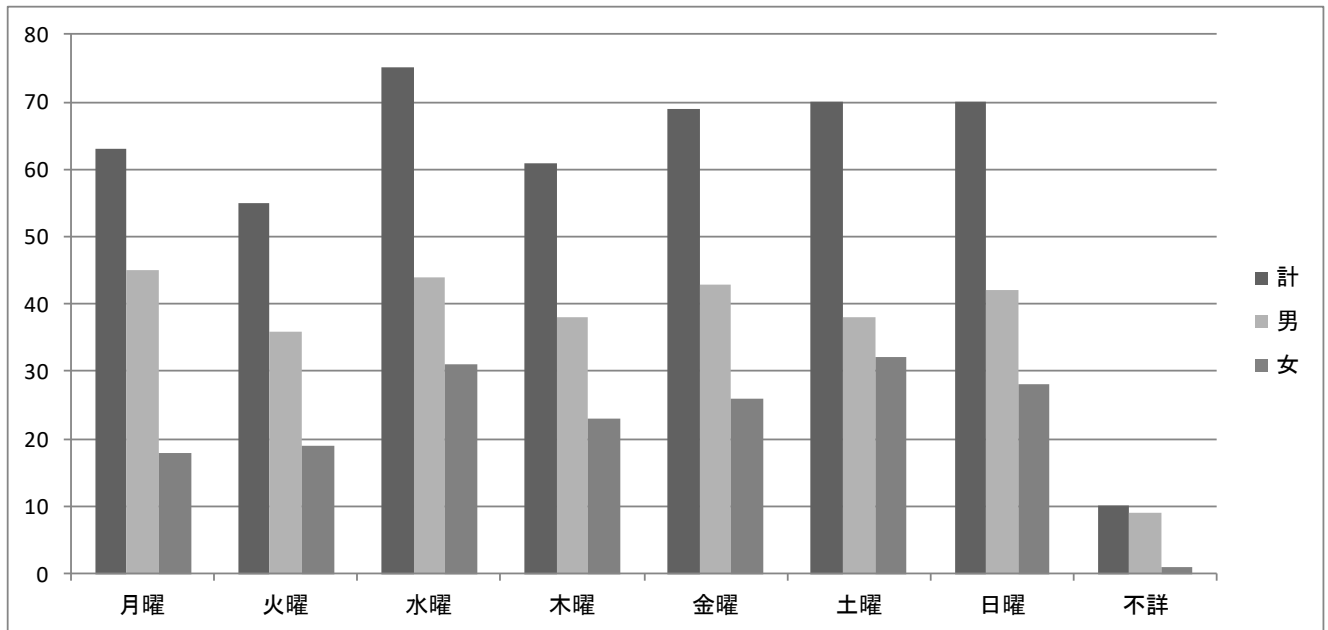
手段	首つり	服毒	練炭等	飛降り	飛込み	その他	不詳	計
計	247	10	20	127	13	56	0	473
男	162	1	16	73	11	32	0	295
女	85	9	4	54	2	24	0	178

12. 曜日別・男女別自殺者数（内閣府・警察庁統計）

曜日別で見ると、「水曜日」が75人（15.8%）と最も多く、次に、「土曜日」、「日曜日」、「金曜日」、がほぼ同数で多くなっている。

男女別で見ると、男性は各曜日ともほぼ均衡した値となっている。女性は「土曜日」と「水曜日」がほぼ同数で最も多く、次いで「日曜日」、「金曜日」が多くなっている。

平成30年 曜日別・男女別自殺者数（内閣府・警察庁統計）



曜日別・男女別自殺者数

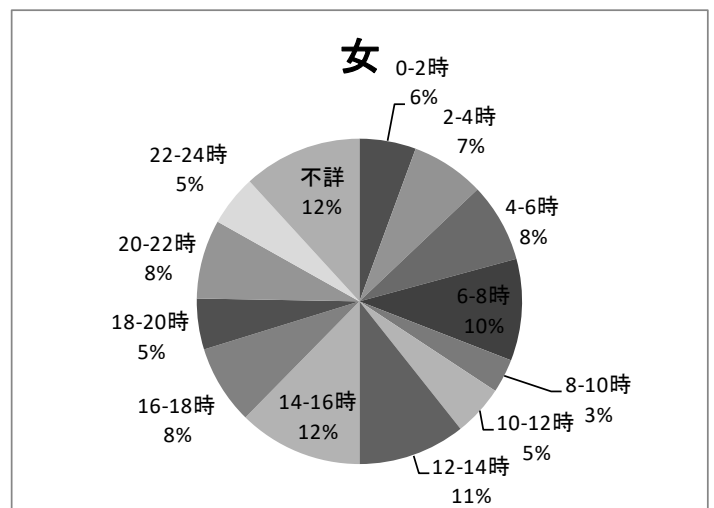
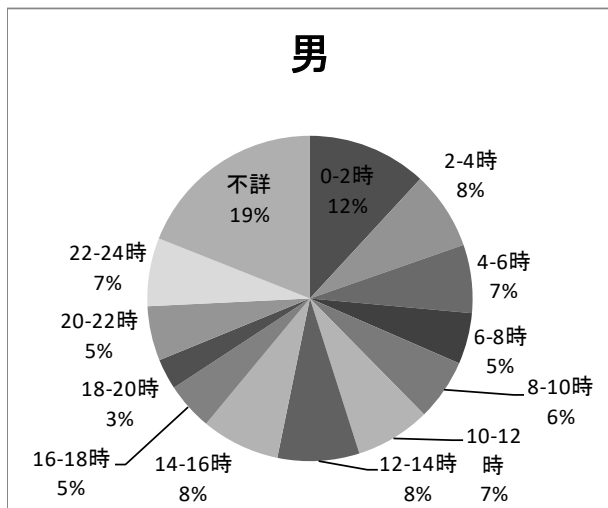
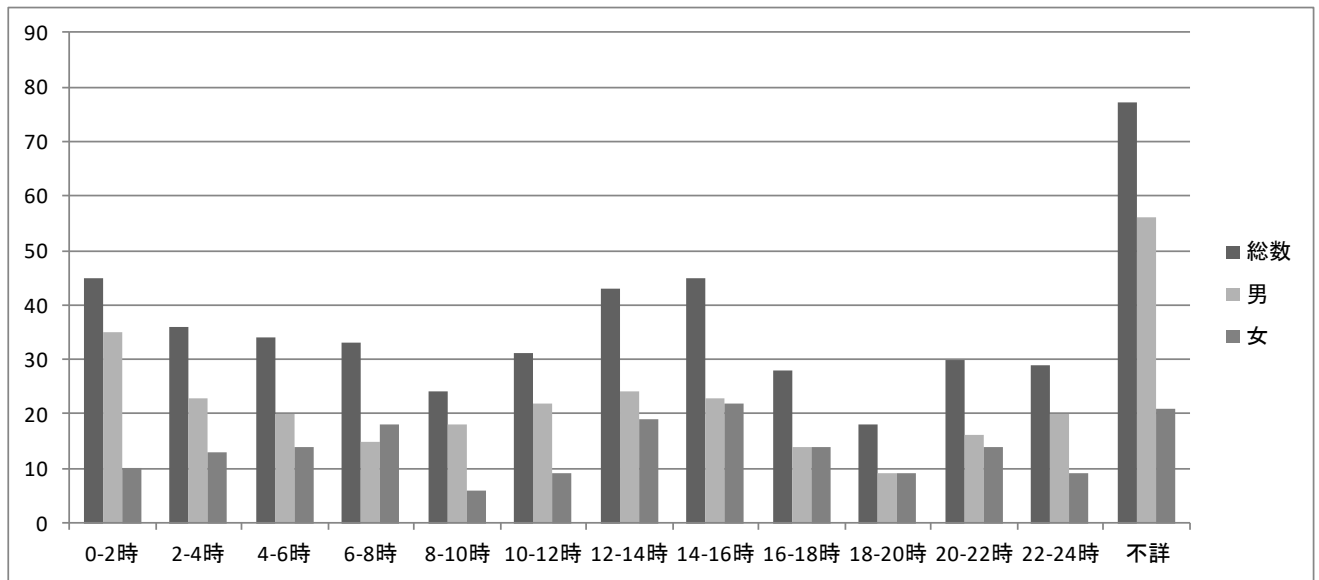
曜日	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	不詳	計
計	63	55	75	61	69	70	70	10	473
男	45	36	44	38	43	38	42	9	295
女	18	19	31	23	26	32	28	1	178

13. 発見時間帯別・男女別自殺者数（内閣府・警察庁統計）

自殺者を発見した時間帯別で見ると、「0-2時」と「14-16時」が45人(9.5%)と最も多く、ついで「12-14時」が43人(9.0%)となっているが、「8-10時」、「18-20時」を除いては多少の差はあるものの、全ての時間帯に均衡した結果となっている。

男女別で見ると、男性は「0-2時」が35人(11.8%)、女性は「14-16時」が22人(12.3%)と最も多くなっている。

平成30年 発見時間帯別・男女別自殺者数(内閣府・警察庁統計)



時間帯別・男女別

時間帯	0-2時	2-4時	4-6時	6-8時	8-10時	10-12時	12-14時	14-16時	16-18時	18-20時	20-22時	22-24時	不詳	計
総数	45	36	34	33	24	31	43	45	28	18	30	29	77	473
男	35	23	20	15	18	22	24	23	14	9	16	20	56	295
女	10	13	14	18	6	9	19	22	14	9	14	9	21	178

1 4. 区別の自殺死亡率及び自殺者数の状況（内閣府・警察庁統計）

平成30年 区別の自殺死亡率及び自殺者数の状況（内閣府・警察庁統計）

区名	自殺者数			自殺死亡率		
	男	女	計	男	女	男女
北区	9	15	24	15.11	23.50	19.45
都島区	6	8	14	11.94	14.74	13.39
福島区	10	2	12	28.84	5.20	16.40
此花区	6	2	8	18.12	5.82	11.86
中央区	9	13	22	19.72	24.78	22.42
西区	5	1	6	10.94	1.97	6.21
港区	12	2	14	29.94	4.84	17.19
大正区	9	2	11	27.37	5.95	16.54
天王寺区	7	5	12	19.95	12.28	15.83
浪速区	8	6	14	23.44	18.35	20.95
西淀川区	11	6	17	22.83	12.24	17.49
淀川区	22	17	39	25.18	19.15	22.14
東淀川区	22	9	31	25.92	10.40	18.08
東成区	5	3	8	12.60	7.01	9.70
生野区	12	10	22	19.43	15.21	17.25
旭区	10	6	16	22.97	12.77	17.67
城東区	12	15	27	14.82	17.01	15.96
鶴見区	1	5	6	1.85	8.49	5.31
阿倍野区	7	7	14	13.84	12.00	12.86
住之江区	17	10	27	28.69	15.75	22.00
住吉区	22	6	28	30.50	7.41	18.29
東住吉区	17	8	25	27.24	11.71	19.13
平野区	26	14	40	27.46	13.57	20.22
西成区	30	6	36	47.83	13.30	33.38
計	295	178	473	22.69	12.71	17.52

・自殺率＝人口10万人当たりの自殺者数

・自殺率の高い区は ①西成 ②中央 ③淀川 ④住之江 ⑤浪速